



韓国巡礼 (その1)

主任司祭 **中村 満**

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎ 0959 (72) 3957
🌐 ホームページ
<http://fukuechurch.jimdo.com>

韓国には一九八四年に聖ヨハネ・パウロ二世によって列聖された百三名の聖人と二〇一四年フランシスコ教皇によって列福された百二十四名の福者がいる。これまで聖人たちの殉教地などには多く巡礼に訪れたことがあったが、福者についてはあまり詳しく知らない。福者たちに関連する殉教地などを訪ねたいと思い立ち、九月二十九日から十月七日まで韓国巡礼に出かけてきた。韓国のカトリック教会



観徳亭殉教記念館(1)



聖人ヨハネ李尹一の像(2)

二十九日の朝、福江空港から福岡空港に発ち、昼過ぎ福岡からインチョン国際空港へ。親しくしている韓国人の李さんに出迎えてもらい、ホテルまで

の歴史は一七八四年の春、北京でイ・スンフンが受洗し帰国したことに始まるという。李氏朝鮮時代は禁教の中であり、信仰の自由を得るまでの約百年間に一説では一万から二万人ほどが殉教したという。殉教地は韓国全土に広がっていて、巡礼に出かけるには興味深い近い国だ。

朝、コンビ二で買った菓子パンを食べ、打ち合わせの地下鉄の出口で落ち合

二十年ほど前に出会い、それからのお付き合いだが、八十歳とは思えないほど元気。それで、韓国巡礼の時はいつも案内してもらっている。長崎には何度も巡礼団と共に来られ、五島にも二度ほど来ていると思う。登山好きなので足腰がしっかりしていて歩くスピードは私よりも早い。スーパード敬老者といったところ。連泊するホテルはソウル教区のカテドラル、明洞教会がすぐ見えるところがあり、ホテルを出て今回收利用する地下鉄の駅などの案内を受けながら、しばらく散策し、少し早い夕食を一緒に摂り、近況を語りあった。ホテルに帰り、就寝。



聖遺骨(3)

い、ソウル駅へ。韓国の新幹線のKTXに乗り、約二時間でテグ駅に着いた。まずは殉教記念館を訪ねようということで、タクシーに乗り観徳亭(カンドクテイ)へ。観徳亭殉教記念館(1)は李王朝時代に大邱監獄のあった役所跡で、付近には武官の武芸場や監獄、重罪人の処刑場などがあった。ここで数十名が殉教しているという。記念館の玄関口にはテグ教区唯一の聖人ヨハネ李尹一の像(2)があり、その横には一昨年列福された十一名の福者名が彫り込まれた記念石盤(4)がある。記念館に入り、往時の資料(5)や聖遺物などを見学し、聖遺骨(3)が収められている聖堂で巡礼の感謝と取り次ぎの祈りをしばし捧げた。



禁教の高札(5)



十一名の福者名の石盤(4)

どきどきフラッシュ!!

10月23日

教皇大使来訪



駐日教皇大使のジョセフ・チエノツトゥ大司教様が福江教会を来訪された。大浦天主堂の小バジリカ認定感

謝ミサに参加された後、司牧訪問のため五島を訪れたもの。当日は朝からあいにくの雨になったが、多くのシスター、信徒に拍手で迎えられたチエノツトゥ大司教様は、にこやかな表情で皆に話かけられた。その後、大使自ら日本語で司式するミサが行われた。



全教会が一つになって福音宣教に努めましょう。「たくさんの司祭、シスターを生み出した地である五島に來ることが出来てうれしい。皆さんこの素晴らしい信仰を次の世代に伝えなければなりません。」と話された。

今年度の殉教祭にも、下五島の各教区から多くの信徒が久賀小中学校に集まり、殉教記念教会へ向けてロザリオ行列が行われた。記念ミサでは、殉教の碑文朗読のあと、献花が行われた。説教の中で、小島神父様は殉教があった当時の様子を語り、棄教を迫る役人に対し命を懸けて信仰を守り通した殉教者達の姿を思い起こさせ、「殉教者のいた事は、信仰を証しする意味での誇りである。直接的な迫害がない現代における『教会離れ』は心的な意味での迫害といえるかもしれない。私たちも、身近な事から信仰を証していきますよ。」と話された。

今年度の殉教祭にも、下五島の各教区から多くの信徒が久賀小中学校に集まり、殉教記念教会へ向けてロザリオ行列が行われた。記念ミサでは、殉教の碑文朗読のあと、献花が行われた。説教の中で、小島神父様は殉教があった当時の様子を語り、棄教を迫る役人に対し命を懸けて信仰を守り通した殉教者達の姿を思い起こさせ、「殉教者のいた事は、信仰を証しする意味での誇りである。直接的な迫害がない現代における『教会離れ』は心的な意味での迫害といえるかもしれない。私たちも、身近な事から信仰を証していきますよ。」と話された。

10月30日

牢屋の窄殉教祭



今年度の殉教祭にも、下五島の各教区から多くの信徒が久賀小中学校に集まり、殉教記念教会へ向けてロザリオ行列が行われた。記念ミサでは、殉教の碑文朗読のあと、献花が行われた。説教の中で、小島神父様は殉教があった当時の様子を語り、棄教を迫る役人に対し命を懸けて信仰を守り通した殉教者達の姿を思い起こさせ、「殉教者のいた事は、信仰を証しする意味での誇りである。直接的な迫害がない現代における『教会離れ』は心的な意味での迫害といえるかもしれない。私たちも、身近な事から信仰を証していきますよ。」と話された。

今年度の殉教祭にも、下五島の各教区から多くの信徒が久賀小中学校に集まり、殉教記念教会へ向けてロザリオ行列が行われた。記念ミサでは、殉教の碑文朗読のあと、献花が行われた。説教の中で、小島神父様は殉教があった当時の様子を語り、棄教を迫る役人に対し命を懸けて信仰を守り通した殉教者達の姿を思い起こさせ、「殉教者のいた事は、信仰を証しする意味での誇りである。直接的な迫害がない現代における『教会離れ』は心的な意味での迫害といえるかもしれない。私たちも、身近な事から信仰を証していきますよ。」と話された。

で行われた殉教。訪れなければ感じ取れない『何か』を今回も得たように思う。もっと多くの信徒がこの地に來て、殉教の碑文を読んで偉大な先人達の姿を感じて欲しいなと思いついた。



で行われた殉教。訪れなければ感じ取れない『何か』を今回も得たように思う。もっと多くの信徒がこの地に來て、殉教の碑文を読んで偉大な先人達の姿を感じて欲しいなと思いついた。

11月6日

墓地ミサ

桐ヶ丘墓地にて墓地清掃と死者の為のミサが行われた。季節はずれの陽光の中、一時間ほどかけて雑草の除去など墓地の清掃を行い、その後約八十余名の参列者の集まる中、ミサが執り行われた。ミサの中で中村神父様は、「参列された皆さんの先祖も喜んでいいることと思えます。私たちの信仰が深まるよう見守って下さっている、先祖の方々のために共に祈りましょう。」と話された。



桐ヶ丘墓地にて墓地清掃と死者の為のミサが行われた。季節はずれの陽光の中、一時間ほどかけて雑草の除去など墓地の清掃を行い、その後約八十余名の参列者の集まる中、ミサが執り行われた。ミサの中で中村神父様は、「参列された皆さんの先祖も喜んでいいることと思えます。私たちの信仰が深まるよう見守って下さっている、先祖の方々のために共に祈りましょう。」と話された。

11月13日

下五島地区 スポーツ大会



五島市中央公園内の球場と市民体育館にて、小教区対抗スポーツ大会が開かれた。四年に一度行われるこの大会に、各教区から多くの信徒が参加した。男子はソフトボール（スローピッチ）女子はソフトバレーで、福江小教区からは男子一チーム、女子は一チームとシスターチームの計三チームが出場した。男女ともこの日のためにチームを編成し、しっかりと練習をしてきたとの事。交流試合とはいえ、どの教区のチームも勝負には負けたくない。懸命なプレーの応酬であった。応援にも熱が入り、大会は大いに盛り上がった。結果は、男女とも浦頭小教区が優勝。福江の信徒チームは男女とも上位入賞とはならなかったが、シスターチームが準優勝と大健闘した。

五島市中央公園内の球場と市民体育館にて、小教区対抗スポーツ大会が開かれた。四年に一度行われるこの大会に、各教区から多くの信徒が参加した。男子はソフトボール（スローピッチ）女子はソフトバレーで、福江小教区からは男子一チーム、女子は一チームとシスターチームの計三チームが出場した。男女ともこの日のためにチームを編成し、しっかりと練習をしてきたとの事。交流試合とはいえ、どの教区のチームも勝負には負けたくない。懸命なプレーの応酬であった。応援にも熱が入り、大会は大いに盛り上がった。結果は、男女とも浦頭小教区が優勝。福江の信徒チームは男女とも上位入賞とはならなかったが、シスターチームが準優勝と大健闘した。



初聖体

おめでとう!!

十一月二〇

日(日)の二番ミサの中で、四月から教会学校の中で準備してきた子供達が、この日イエス様の御聖体を受ける初聖体式が行われた。「初聖体を受けた子供達おめでとうございます。今日初めて受けたイエス様はこれからずっとミサを受けたら頂けます。日曜日の朝、お父さんお母さんを起こしてイエス様を受けに行きたいと言ってください」と中村神父からお祝いの言葉を頂き、祝福したメダいを一人ずつ受け取った。



子供達は初聖体のお恵みを受けて喜びと緊張に満ちた表情で、これから頑張りたい事をそれぞれ発表していた。



保護者代表のことば

「いづくしみの特別聖年」閉年の記念ミサという特別なミサの中、本日、十一名の子供たちが、初聖体式を迎えることができました。小さな手を合わせ、その顔はしっかりと天を仰ぎ、澄んだ瞳にイエス様の姿を映しています。未来の教会を支えていくであろう小さな天使たちが、この春、教会学校の一員となり、上級生のお兄さんやお姉さん達と共に祈りの時間を過ごす中で、少しずつ、それでも着実に、霊的な成長を見せてくれたと感じています。これもひとえに、中村主任神父様をはじめ小島神父様、カテキスタのシスター方のお支えがあったおかげと、感謝致しております。



これまでは、神父様からいただく祝福が心のよりどころだったごミサ。ようやく、初めての

ご聖体を頂く事ができ、心も体も、神様の愛に満たされていることと思えます。まだ、ご聖体そのものの意味や重さは分からないとは思いますが、これからの信仰生活の中で、ごミサやご聖体拝領を重ねながら、神様からの豊かな愛を、理解したり実感として感じられるようになること信じております。

信者の皆さま、これまでの霊的祈りや見守りに感謝致しております。子ども親も、まだまだ未熟ゆえ、子供たちと共に、信仰を深くしていかなければならないと感じております。これからも、その成長を温かく見守っていただければ幸いです。本日は本当にありがとうございます。

平成二八年十一月二〇日

保護者代表 瀧口栄次

「イエスさまに喜んでいただくために頑張りたいこと!」



◆ **フィリップ**
小畑 和成くん
「罪をおかさないように頑張る!」



◆ **フランシスコ**
中村 学利くん
「お家でも学校でもけんかをしないようにします!」



◆ **ペトロ**
小出 篤志くん
「聖歌をがんばります!」



◆ **ミカエル**
入口 正大くん
「大きな声でお祈りをします!」



◆ **エフレム**
瀧口 楓人くん
「十字架のしるしを頑張りたい!」



◆ **ヨアキム**
堺 悠太くん
「5月と10月の口ザリオを頑張りたい!」



◆ **マリア・マグダレナ**
真鳥 咲衣子さん
「大きな声で聖歌を歌います!」



◆ **マリア**
西津 美陽さん
「お祈りを頑張ります!」



◆ **セシリア**
中里 莉望さん
「人にやさしくします!」



◆ **アグネス**
木戸 めぐりさん
「口ザリオを大きな声で頑張る!」



◆ **テレジア**
平田 葉南さん
「お友達への悪口を言わないようにします!」

小島神父様 霊名のお祝い式



十二月四日(日)二番ミサ後に、フランシスコ・ザビエル小島明神父様の霊名のお祝い式が行われた。子供代表の西津朝陽君よりお祝いの言葉があり、信徒代表より霊的花束の贈呈が行われた。

小島神父様はお礼の言葉として、「今日は二重の喜びがありました。今日のミサで洗礼を受けたこの子供も、同じ聖フランシスコ・ザビエルの霊名で嬉しい限りです。フランシスコ・ザビエルの人生は波乱万丈でした。日本に來たのも突如ピンチヒッターとして派遣されたものでした。私も色々な場面でピンチヒッターになれるように、皆さんの役に立てるように頑張っていきたいと思っています。」と述べられました。

助任司祭として休みなく司牧に務めておられ、心身ともに負担は相当なものでしょう。お体を大切に、益々のご活躍を期待しています。

馬小屋 & イルミネーション 飾り付け



待降節第一主日の十一月二十七日(日)午後、クリスマス馬小屋と教会周辺のイルミネーション飾りつけ作業が行われた。今回は馬小屋、イルミネーション共に一部リニューアルを行った為、通常より作業が難航したが、夕刻には無事に終了した。作業に参加された信徒の皆さんとシスター方に感謝しつつ、主の降誕の喜びを迎えましょう。



お知らせ

◆クリスマス〜年末年始のミサの時間

《クリスマスミサ》

12月24日(土) 午後7時〜
12月25日(日) 午前6時〜
午前9時〜

午前9時〜

オリジナルグッズ 販売始めました!

福江教会のオリジナルグッズが出来ました。福江教会のイルミネーションが載ったクリスマスカード(200円)、レターセット(450円)、一筆箋(350円)、メモ帳(350円)の四点です。レターセット、一筆箋、メモ帳は福江教会の素敵なイラスト付きです。自分用にはもちろん、大切な人への贈り物や帰省などで帰ってきた方へのお土産にいかがですか?



信徒会館にある売店内で販売しています。ミサの後などに、ぜひお求め下さい!

《感謝のミサ》

12月31日(土) 午後7時〜

《年始ミサ》

1月1日(日) 午前9時〜
1月2日(月) 午前9時〜
1月3日(火) 午前9時〜

◆今後の日程

● 1月8日(日)

小教区定例評議会

馬小屋、イルミネーション撤去

● 1月15日(日)

下五島地区合同堅信式

編集後記

本年最後の広報誌「こころ」を発行する事が出来ました。二〇一六年は皆さんにとってどういう年でしたか? 教会では、いつくしみの特別聖年という大きな恵みの年でもありました。聖遺物の展示や記念コンサートなど、いくつかのイベントもあり、また福江教会が、いつくしみの扉を設けたこともあって、神様のいつくしみについて考え、感謝する機会も多かったのではないかと思います。十一月二〇日の閉年ミサによって特別聖年は終了しましたが、神様のいつくしみを感謝し、信仰を深めていく事に終わりはありません。

来年の干支は酉。福江教会が飛躍する年になるには、信徒の皆さんが、日々のお恵みを神様に感謝し、明るく元気に教会活動に参加して下さることが不可欠です。広報誌「こころ」が、少しでもそのお役に立てればと思います。

来年もどうぞよろしくお願います。
(N・H)